

が、二〇二〇年の新型コロナウイルスの感染拡大により、止むを得ず二〇二二年に延期させていただきました。この新型コロナウイルス感染の蔓延下に開催された多くの学会から学んだことは、オンライン開催の利便性と現地開催・現地参加の重要性でした。したがって、本学術集会も、できるだけ多くの国内・海外の方が現地参加して気兼ねない出会いと議論の場となることを目的として、可能な限り対面で参加していただけるように準備し、ハイブリッド開催を行いました。実際に、現地に



熊本城ホールシビックホールにて撮影

約六百名程の参加があり、過去最高に盛り上がった学術集会となりました。特別講演では、Dr. Stefan Kolker (University Children's Hospital Heidelberg), Dr. Johannes Haeberle (Leitender Arzt, Leiter Stoffwechsellabor), Dr. Michalak Marek (University of Alberta) の

三名の先生方に御講演をいただきました。また、教育講演では、江良沢実先生 (熊本大学発生医学研究所)、Dr. Nicola Longo (University of Utah), Dr. Dau-Ming Niu (Genetic Consultant Center Rare Disease Medical Research Center), 松本志郎先生 (熊本大学小児科学)、Dr. Chien Yin-Hsiu (National Taiwan University Hospital), 長尾 雅悦先生 (国立病院機構北海道医療センター)、山本 琢磨先生 (兵庫医科大学法医学) の七名の先生方に御講演いただきました。

最後になりましたが、本学会開催に對して多大なご支援をいただきました肥後医育振興会の皆様方に厚く御礼を申し上げます。また、本学会開催にご協力いただきました皆様方に深く感謝を申し上げます。今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

第百二十回日本消化器病学会九州支部例会報告

消化器内科学 教授

田中 靖人

二〇二二年十二月二日(金)、三日(土)の二日間、熊本城ホールにて日本消化器内視鏡学会九州支部例会との合同開催で、第百二十回日本消化器病学会九州支部例会を開催いたしました。

「プレシジョン・メディシン時代の消化器病学」というメインテーマのもとに、シンポジウムとワークショップを合わせて計八つの主題演題を企画しました。ハイブリッド形式ではなく現地発表のみとし、主題演題と特別企画をオンデマンド配信いたしました。

合計約四百題の演題応募があり、千名以上の参加がありました。最新の臨床研究や基礎研究の発表があり、これからの方向性について演者とフロアが一体となった討論が交わされました。研修医・専修医発表では、若い医師による活気ある発表がなされました。

また、肝疾患コーディネーター関連特別企画としては、厚生労働省「知って、肝炎プロジェクト」のスペシャルサポーターである高橋みなみさんに出演していただき、大西市長と私の三人でトークイベントを行いました。その



他、くまモン体操や市民へのHCV無料検査も実施し、肝炎啓発活動にも貢献できたと考えています。その他の特別企画として、大腸内視鏡の挿入や内視鏡治療(ESD)の技術習得や向上を目的とした内視鏡ハンズオンセミナーを開催し、多くの参加者、見学者により活況を呈していました。

二日間を通して、素晴らしい内容の発表と活発な討論で盛り上がった合同支部例会であり、九州から新しい情報発信ができたと確信しております。

末筆ながら、本学会にご支援いただいた肥後医育振興会のご協力を厚く御礼申し上げます。